

# ボリビア通信 2025-3

初めまして、JICA 海外協力隊の豊田直也です。2024 年 11 月からボリビアで活動しています。

ボリビアは、南米大陸の真ん中にある国で、東西にはブラジルとペルーがあります。日本から見ると地球の反対側ですが、百年以上前から日本人が移り住み、今も多くの日系人が住んでいるんですよ。

今回は、私が最初の一か月を過ごしたラパス市と、活動地のオルロ市を紹介します。

## <ラパス市>

ラパスは「世界一、標高が高い首都」といわれ、富士山の山頂（3776m）ぐらいの標高です。酸素が薄く、高山病のリスクがあるため、空港や多くのホテルに酸素ボンベが備えられています。私たちも空港に到着すると、すぐに血中酸素濃度を測定しました。最初は体調を崩す人が多く、私も少し歩くだけで息切れしました。すり鉢状の地形の斜面に街が広がっているため、10路線もあるロープウェイが日常の交通手段として定着しています。ロープウェイから見る夜景がきれいですよ。ボリビアには、首都が2つあります。憲法上の首都はスクレで、行政機関が集まるラパスは「事実上の首都」と言われています。



## <オルロ市>

私が住むオルロ市も、ラパスと同じぐらいの標高です。この街のカーニバルは国連教育科学文化機関（UNESCO）の無形文化遺産で、南米3大カーニバルに数えられるほど有名です。今年は3月1、2日に開かれ、国内外から集まった大勢の人が夜通し踊り続けてました。私も参加しましたが、日本人が珍しいため、観客からたくさん声をかけられました。郊外では、アルパカに似たリヤマという動物が放牧されています。リヤマの肉を食べるのですが、おいしいですよ。伝統儀式の供え物にするため、リヤマの胎児のミイラも売られています。文化的にも重要な動物のようです。

